

# ホタルの淡い光に歓声

## 市民100人集まり鑑賞会

### 北ほたるの里 ケーナの演奏も

網走西部地区資源保全協議会が卯原内川近くの山間部に整備した

「北ほたるの里」で3日、鑑賞会が開かれた。

「昔の農村地帯を取り戻そう」と、ホタルの復活に取り組んでいる同協議会が開いているもの。

同協議会とともにホタルの生息環境回復に取り組んでいる西が丘小の児童やその父母、地域住民など約100人が集まり、日が沈んで薄暗くなった午後7時半ごろから、ホタル

が光り始めるのを待つ。日が沈んで星が見え出したのを待っていたかのように、整備された池の回りで一匹、また一匹とホタルが光ると「あ、光った」「ほら、あそこにも」と歓声が上がった。

また、市内の笠谷俊一さん(網走工業社長)が南米インディオの縦笛「ケーナ」の演奏を披露。幻想的なホタル観賞に花を添えた。

この日は日中から気温が上がらず、夜も涼しかったこともあってホタルが飛び交う様子が見られなかったが、訪れた人たちはあちらこちらに浮かび上がる淡い光に見入っていた。同協議会の上田薫会長は「今年も池を整備したこと、放流したホタルもたくさん飛んでいたが、今日は気温が低いのであまり見られなかったのが残念。まだ10日くらいは見られるので、気温が高い夜に鑑賞に来てもらえば」と話していた。「北ほたるの里」は

(伊藤)



淡い光を放つホタルに見入る人たち



池の周りの石垣で淡い光を放つホタル(白い点)